

# インド・サイアンでの日食観測記

孫 隆二

私の参加したツアーはP T Sのインドサイアン観測地コースA 1、A 2合計24名でした。昨年のペルーでの皆既日食では、直前に盲腸破裂というトラブルがあり、P T Sにキャンセル料としてかなりの先行投資をしていた私は、仕事の都合上5日間でありながら前日同時リハーサルのあるA 1コースに参加しました（若い男性ばかり8名でした。）

P T Sは事前調査がきわめて詳細に行われ、説明会も二回行われて、なおかつリーズナブルな価格で、日食好きの添乗員さんで、いち推しのツアーだと思います。参加された方々は、新婚旅行の方や、日食5回目の丹羽さんをはじめ、わりあいリピーターの方が多く、ご夫婦も3組みえました。年齢も65~22才と落ち着いた雰囲気メンバーでした。

さて、成田からのエアインディアの出発便が7時間弱遅れのフライトとなり、深夜デリーからバスを飛ばし、宿泊を予定していたアグラのホテルについたのが朝の6時前で、休む間もなく、観測地の下見にいきました。アグラからサイアンへはバスで40~50分で、ほとんど直線に近いニギイという歯磨にも、胃の薬にもなる木の繁る街道をひた走りました。鉄道と交差して少しいったところの農村地帯の本当に小さな集落にあるモティラルカレッジの校庭が第一候補地でした。ここは広くて東、南の視界もよく地面もかたく、快晴無風のなか、ほぼ同時刻リハーサルができました。すぐ前に鉄道が走り、割合頻繁に十何両にもなる電気機関車のひく列車が通ります。

インドは宗教上の理由で殺生をさけるせいか、いたるところウシ、ウマ、イヌ、ヒツジ、ヤギ、イノシシのような野ブタ、リス、野鳥があふれ、ここにも野性のサルがいました。日食本番のとき機材をとられないか少し不安でした。

一応押えということで、他の場所もさがしましたが、サイアンから少し南にいき、川を越えらるとラジャスタン州になり、バスは許可がおりずに中心線まではいけませんでした。数名の方が徒歩でいきましたがあまりよい場所はないようでした。

下見の帰り、町はディパワリというヒンズー教のお祭りでごったがやしていました。マリールゴールドの花が縁起の良いということで、あちこちに飾られていました。その後ホテルに戻り、昼食をとり、日本を出て37時間振りに2時間ほど眠りました。

夕食時ホテルでもお祭りにあわせて花火が上げられ町の建物もイルミネーション飾られ偶然とはいえあたかも日食の前夜祭のように思えました。

就寝前に、最後のチェックをして、3時間ほど眠り、起床は、午前2時でした。ノボルテアグラに同宿となった読売旅行（村山定男先生同行）のツアー（ファテプールシクリ古い城での

観測)が先に出られ、そのツアー参加の知り合いともお互いの観測の成功を誓う。サイアン組は3時にホテルを出て、30分ほどでつきました。肝心の天気ですが、素晴らしいことに全天快晴で、日本ではなかなかお目にかかれない、カノープスが楽々見られ白く明るく輝いていました。インドは飛行機の窓から見ても町明りが非常に少なく、ここサイアンの星空も素晴らしく、冬の銀河がはっきり見られ、さらに東天に舌状の黄道光も明瞭に見られました。いつもより低い北極星でセッティングを済ませ、日の出前のひとときサイアンでの星空を楽しみました。

ここの校庭には私たちのほかには、JR東日本ツアーズの個人グループ13名と、私はきづかになったのですが、他にプロ用機材の人達が数名みえたようです。日の出は6時27分にほんのり朝焼けのなか、柿色の太陽が昇りました。

なんとこのとき早くも、ミスに気づきました。多重露出のカメラが手前の木にかかるため大急ぎで、移動しました。前日同時刻リハーサルのとき、疲労のため機材をもっていかなかったためのミスでした。

全天快晴無風のなか、7時27分、第一接触が始まりました。この直前ビデオのほうまで木のかかることにきづき、大慌てで移動する。大きな黒点がなく、ピントあわせに苦労する。やはりモニターは必需品であろうか。ビデオも新機材のため仮想コロナの月面のみで、直接太陽面をテストしなかった為にきわめて悪い像になってしまった。

次第に欠けてゆき、高度が低いせいか半分ぐらいかけただけで、ずいぶん暗く感じられた。多重は7分おきに、ビデオは10分おきに一応プログラムどうり進みました。今回は食分が浅いのでシャドーバンドは期待していなかったのですが、第三接触30秒ほど前に丹羽さんに教えていただき、地を這う明瞭なまだら模様を初めてみる事ができました。しかしこの後ビデオのフィルターをはずすのを忘れ、15秒ほどロスし、なおかつ多重用のコロナのコマを踏み忘れてしまい、コロナのない多重写真となりました。しかしながら肉眼で美しい、東西に一本ずつストリーマーの長く伸びたコロナをみる事ができました。今回はメキシコのときに比べても空がさらに明るく、ほとんどグレーの背景に、シルバーの美しいコロナでした。それもまったく天候の心配をすることなく、滞在した3日間昼間に雲を見る事が無いぐらいの好天でした。当然日食天気階級は4です。あえて5といたいぐらいの好条件でした。インドの選択は成功しました。ただ後1分程長ければ、最高でしたが、

予報では50秒でしたが、実際は月縁補正で約40秒という本当に一瞬で、少しのミスを取り返すための我にかえるいとまはありませんでした。

第三接触後は撮影を続ける人も少なくなり、失敗とわかりながらも、暑さの戻ったなか最後まで撮影を続けました。さすがに最後の一人となりましたので、現地の人々の興味をひき、周囲を囲まれてしまい、少し撮影の支障となりました。しかし現地のガイドさんが線をひき現地の人が近づきすぎないようにいただき、ほぼ順調に撮影できました。

学校でグートもあるため、好奇心旺盛な現地の人々は大人十数名、子供十数名合計30名弱でした。あちこちで現地の人達と、記念写真を撮ったりしていました。しかしインド全体としてはあまり関心がないような雰囲気でした。日食記念グッズなどというものは一切目にしませんでした。

日食の後A1・A2と2組にわかれ観光となりました。地上の真珠といわれる総大理石造りの墓標タージマハール、インド赤砂岩のアグラ城、翌日はデリー市内観光の後夜行便で帰国となりました。A2コースはジャイプールが加わり3日観光のおおいコースでした。観光だけでも価値のあるツアーだったと思います。

最後に、日食が見ることができたことを、同じツアーに参加されました方々、PTS、インドの国すべての方々に感謝します。

インドのデリーの交差点で元気なく、うつろに、もの乞いすることなくすわっていた7～8歳ぐらいの男の子の目が、同じ歳の子をもつ親として、強烈に残ってしまいました。リキシャがきたら裸足の足をひかれないようにかろうじて足を上げていた。バスの窓があげば思わずなにかあげたかったです。そして日食のためにインドに来られる自分の幸福を感謝せずにはいられませんでした。

不眠不休で、思い荷物をかつぎ、炎暑のなか見る日食は、あたかも悟りを開くための修行を積む僧のようで、そして日食コロナの情景は、ハスの花のさくような地上の極楽浄土なのかもしれない。



95.10.24 8h35m RZ マミヤ 55mmF4 プロビ7100 1.5秒露出



サイアンの日食観測地